

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：12611

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26560154

研究課題名(和文)地誌的視点を取り入れた旅行ガイドブックとその一般普及に関する基礎研究

研究課題名(英文)Popularization of geography by using travel guidebooks in perspective of geography

研究代表者

長谷川 直子(石黒直子)(HASEGAWA, Naoko)

お茶の水女子大学・基幹研究院・准教授

研究者番号：60433231

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では地理的な視点を一般の人たちに広めるための効果的な手段として、旅行に着目した。一般に市販されている旅行ガイドブックに地理的な記述がほとんどないことから、地理の視点を取り入れた旅行ガイドブックの出版と普及を検討した。大学での授業で作成した地理的記述を含むまちあるきガイドマップを中心に月刊「地理」の増刊号として雑誌を出版した。一般の人に親しみやすいよう雑誌の構成やデザイン・タイトルなどを学生が考えた。この雑誌が社会の目に留まりテレビ・新聞・ラジオなどから、学生・研究者双方に対する問い合わせが続いており、社会や学術界に対して一定のインパクトを与えられたと考えている。

研究成果の概要(英文)：This research aims to popularize Geography through travel guidebooks though popular travel guidebooks hardly include geographical information. Our travel guidebooks which include the geographic explanations might be good opportunities intended for the general readership to understand regional properties. The travel guidebook made by students in the class of our university has been published in a special edition of journal, "Geography". Our journal attracted not only mass communication media's but also academic field's attention. We confirmed that the geographers could contribute to reach out more to those who are not familiar with geography.

研究分野：地理学

キーワード：地理 旅行ガイドブック アウトリーチ 科学コミュニケーション 出版

1. 研究開始当初の背景

一般の人に地理的な視点(地域を総合的に理解する視点)が十分に養われていないという点は多くの地理学関係者が認識している課題であろう。しかし、どのようにして一般の人に地理的視点を広めるかの具体案や実践例は今まであまり議論されてこなかった。

地理学は、「総合学としての地理学」のあり方を見直す時期に来ているのではないだろうか。本研究は、各分野と社会をつなぎ、研究を単なる研究で終わらせることなく、実践的かつ社会に直接成果を還元できるという点で、「Science for Society な」活動であると考えている。このようなトランス・サイエンスの重要性は特に東日本大震災以降多くの学問分野で叫ばれつつある。総合学の指向性を内包する地理学が実践することで、地理学の本来の重要性と意義を社会に認識してもらうことが、地理学の将来にとっても喫緊に必要なことと考えている。

2. 研究の目的

筆者らは、「地域を総合的に理解する」地理的な視点を一般の人に普及させる手段としての旅行ガイドブック(ネット上のコンテンツやTVメディア等の情報も含む)の作成と普及を最終的な目標としている。本申請課題では、地理の視点を取り入れたガイドブックを提示し、それに対する読者や社会の反応を調査することで、その効果と有効性を検証したい。

3. 研究の方法

地理的な視点を取り入れた旅行ガイドブックの形を示し、それに関する読者の意見を主としてアンケートにより聴取し分析する、アクション・リサーチの形を取る。

4. 研究成果

平成26年度

- ・大手旅行ガイドブックの編集担当者(地理学出身者)と会合を持ち、地理的な視点を取り入れた旅行ガイドブックの出版の可能性について打診した。編集者との間では好感触であったが、編集長の段階でストップがかかり、実現しなかった。近年の出版不況によって確実に売れるとわかっているもの以外の冒険は難しいようである。
- ・バスガイドの教本を出版している唯一の現存する出版社より依頼を受け、バスガイド教本に関する執筆と監修を行うことになった。この調査を進める中で、バスガイド教本は地理学のアウトリーチにとって大変有効な手段であることがわかった。これに関する学会発表を行った。

平成27年度

- ・筆者は大学の授業の中で地理の視点を取り入れたまちあるきガイドマップの作成を中心とした授業を行っているが、その授

業成果を中心に、月刊「地理」増刊号が出版された(「地理×女子=新しいまちあるき」古今書院月刊地理2016年3月増刊)。この中に読者アンケートはがきを綴じ込み、読者の反応を見るための土台を作った。

- ・これらの研究を進める中で地理学のアウトリーチに興味を持つ仲間が集まるようになり、日本地理学会の中に「地理学のアウトリーチ研究グループ」を立ち上げた。

平成28年度

- ・前年度に出版した雑誌の読者アンケート17通について分析し、発表をした。今までにない形の地理関係の雑誌ということで評価を受けた。(具体的な記述としては、地理の敷居を下げた、お固い地理のイメージを変えた、このような一般向けの本がもっと出ると良いと思う、など)
- ・雑誌を見た都立高校地理教諭から巡検実施の依頼があり、高校1年生270人を巡検案内した。その際実施前後でアンケートをとりアクションリサーチを行った(その分析結果は学会発表をした)
- ・本科研費の成果発信として、ひらめきときめきサイエンスに応募し採択された。全国から集った地理好きな女子中高生を地理好き大学生がまちあるき案内した。(この様子は新聞に2件掲載された)
- ・地理的な説明を入れた絵葉書を作り、旅行者や地理関係者に配布した。これについても意見を聴取するアンケートはがきを同封して意見を回収した。(この分析・成果公表は29年度以降に行う予定である)
- ・雑誌出版がきっかけとなって「地理女子」という単語が生み出され、それが社会的に話題になって学生を中心に(一部筆者も含む)テレビ、ラジオ、新聞等のマスコミに登場することが多々あった。これらも含めて出版のアウトリーチ効果と考えて、効果検証に関する学会発表を行った。
- ・なお、これらに付随して、一般向け書籍の企画や市民講座での講演、様々な委員や地理教育・地理普及に関する問い合わせが劇的に増えた。これらもすべて、元をたどれば雑誌の出版がきっかけとなったアウトリーチ効果と考えられ、その効果は一般社会に対してだけでなく、学術界の中においても大きかったと感じている。
- ・日本地理学会地理学のアウトリーチ研究グループのメンバーを中心とした執筆で、月刊「地理」に地理学のアウトリーチの連載を企画し、平成29年1月号より開始した(1年間の予定)
- ・日本地理学会春季学術大会で「地理学のアウトリーチ・科学コミュニケーション活性化のために」というシンポジウムを開催した。

全体のまとめ

大手旅行ガイドブック出版社とのコラボは研究初年度にすぐに打診をし、うまく行かないことがわかったものの、様々な運に恵まれ、2年度目に雑誌を出版することが出来た。これに対する社会の反応は大変大きく、新聞4件、ラジオ2件、テレビ2件、ネット記事は数えきれないほど取り上げられ、研究終了後も問い合わせが続いている。ただ、この反応は「地理」に対する興味ということよりも（もちろんそれもあるが）、男性的なイメージのある地理に「女子」がいたと言うことに対する反応の方がどちらかと言うと大きいような感触もある。それらも含め、今後の地理の普及のための、一つの布石となる知見が得られたと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 10 件)

1. 早川裕式 2017. 地理でコミュニケーション! (5) 3次元地理空間情報を活用したアウトリーチ. 地理. 62(5): 口絵6; 54-59. (査読なし)
2. 長谷川直子 2017. 地理的面白さを広めるために. 地歴最新資料第 19号. 18-20. (査読なし)
3. 長谷川直子 2017. 地理でコミュニケーション! (1) 地理のアウトリーチ・科学コミュニケーション活性化のために. 地理. 62(1): 4-9. (査読なし)
4. 長谷川直子 2016. ご当地グルメを通じて風土を理解する (13) 350年の伝統のはなし. 地理. 61(5): 76-81. (査読なし)
5. 早川裕式 2016. ご当地グルメで風土(フード)を理解する (11): みずみずしいはなし - 岡山の穏やかな気候が育んだフード. 地理, 61 (4), 口絵 5; 7-13. (査読なし)
6. 長谷川直子・竹村一男 2016. ご当地グルメを通じて風土を理解する (6) 消え行く宝のはなし. 地理. 61(1): 96-102. (査読なし)
7. 長谷川直子・横山俊一 2016. 地理学のアウトリーチと本増刊号の位置づけ. 「地理×女子=新しいまちあるき」. 125-127. (査読なし)
8. 長谷川直子 2015. 地理学の巡検と旅行の違いを探る - 一日巡検授業実践報告 -. お茶の水地理 54. 31-34. (査読なし)

9. 長谷川直子 2015. ご当地グルメを通じて風土を理解する (1) 地理的視点とご当地グルメ. 地理. 60(5): 7-13. (査読なし)

10. 長谷川直子 2015. ご当地グルメを通じて風土を理解する (2) いもはなし. 地理. 60(6): 53-55. (査読なし)

[学会発表](計 24 件)

1. 長谷川直子 2017. 大学の授業成果の出版による波及効果の省察 メディアを通じたアウトリーチの視点から 2016年度日本地理学会春季学術大会(筑波大学) (2017/3/28~3/29)
2. 長谷川直子 2017. 地理学のアウトリーチ・科学コミュニケーション活性化のために(シンポジウム趣旨説明) 2016年度日本地理学会春季学術大会(筑波大学) (2017/3/28~3/29)
3. 長谷川直子 2016. 新しいまちあるき. G空間Expo日本地理学会主催シンポジウム「新しいたびー地理コンテンツの愉しみー」2016/11/26(日本科学未来館).
4. 長谷川直子 2016. 大学の授業成果の出版によるアウトリーチ効果の検証 「地理×女子=新しいまちあるき」の読者アンケート結果から .2016年度日本地理学会秋季学術大会(東北大学) (2016/9/30-10/1)
5. 長谷川直子 2016. 高大連携による地理学巡検の実践 .2016年度日本地理学会秋季学術大会(東北大学) (2016/9/30-10/1)
6. 早川裕式・安芸早穂子・辻 誠一郎 2016. 3次元情報技術を用いた景観復原における地理的要素の可視化とアウトリーチ. 日本地理学会2016年秋季学術大会要旨集. 日本地理学会2016年秋季学術大会(東北大学) (2016/9/30-10/1)
7. 長谷川直子 2016. 大学授業成果の社会発信の効果と課題 .日本科学教育学会第40回大会.(ホルトホール大分) (2016/8/21)
8. 長谷川直子 2016. アウトリーチの1手段として授業成果を発信する .2016年地球惑星科学連合大会. (幕張メッセ) (2016/5/22)

- 9 . 早川裕式・長谷川直子・佐藤李菜 2016. ストーリーマップを用いた地理的巡検コンテンツの整備と再利用. Abstracts, Japan Geoscience Union International Meeting 2016, G03-P07. (2016/5/22-26, 日本地球惑星科学連合2016年大会, 幕張メッセ)
- 1 0 . 長谷川直子・横山俊一2016. 地理学のアウトリーチを意識した授業とその成果発信. 2016年日本地理学会春季学術大会(早稲田大学)(2016/3/21-22)
- 1 1 . 横山俊一・長谷川直子 2016. バスガイド教本の地理的記述についての試案. 2016年日本地理学会春季学術大会(早稲田大学)(2016/3/21-22)
- 1 2 . 長谷川直子・横山俊一 2015 学生が作成した地誌的視点を取り入れた旅行ガイドブック-地理の一般普及の視点から. 2015年度日本地理学会秋季学術大会(愛媛大学)(2015/9/18-19)
- 1 3 . 横山俊一・長谷川直子 2015 地理的コンテンツを含んだコンビニ販売のペーパーバックについて-地理の一般普及の視点から. 2015年度日本地理学会秋季学術大会(愛媛大学)(2015/9/18-19)
- 1 4 . 横山俊一・長谷川直子 2015 バスガイド教本と刊行エリアについて-地理の一般普及の視点から. 2015年度日本地理学会秋季学術大会(愛媛大学)(2015/9/18-19)
- 1 5 . Hayakawa Y. Hasegawa N. Sato T. 2015. Effectiveness of storytelling geospatial information for field trips. 2015 年度日本地理学会秋季学術大会(愛媛大学)(2015/9/18-19)
- 1 6 . Yokoyama S., & Hasegawa. N. 2015. A Comparison of the Characteristics of Japanese and Foreign Travel Guidebooks. IGU 2015 meetings (2015/8/17-21.Moscow).
- 1 7 . 長谷川直子・横山俊一 2015 地理学の一般普及の手段としてのバスガイド教本.日本地理教育学会大会.2015/7/18-19.奈良教育大学.
- 1 8 . 横山俊一・長谷川直子 2015 地誌的視点を取り入れた旅行ガイドブック作成の授業実践報告.日本地理教育学会大会.2015/7/18-19.奈良教育大学.
- 1 9 . 長谷川直子・横山俊一 2015 一般向けに特化した地理学のアウトリーチの手段とはどのようなものがありうるか. 日本地球惑星科学連合大会.2015/5/24. 幕張メッセ.
- 2 0 . 長谷川直子・横山俊一 2015 ジオグラフィコミュニケーターとアウトリーチ地理学の提案.2014年度日本地理学会春季学術大会(日本大学)(2015/3/28-29).
- 2 1 . 横山俊一・長谷川直子・谷口智雅 2015 旅行ガイドブックの出版数と観光客数の地域的特徴について. 2014年度日本地理学会春季学術大会(日本大学)(2015/3/28-29)
- 2 2 . 長谷川直子・横山俊一 2014 一般向けの地理教養向上の手段としての旅行ガイドブック活用の可能性について(口頭)2014 年度日本地理教育学会 第 64 回大会(2014/8/10 横浜国立大学)
- 2 3 . 戸田真夏・長谷川直子・大八木英夫 2014 大学生の国内旅行と旅行情報源(1)-男女差の視点から-.2014 年度日本地理学会秋季学術大会(富山大学)(2014/9/20-21)
- 2 4 . 横山俊一・長谷川直子・谷口智雅 2014 東京都を対象とした旅行ガイドブックの地域的特徴について. 2014年度日本地理学会秋季学術大会(富山大学)(2014/9/20-21)

〔図書〕(計 1 件)

長谷川直子・横山俊一監修 お茶の水女子大学ガイドブック編集委員会編 『地理×女子=あたらしいまちあるき』古今書院.128p.

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

平成 28 年度ひらめき ときめきサイエンス
の工夫された例に選ばれた
https://www.jsps.go.jp/hirameki/09_kufu.html

地理女子facebookページ
<https://www.facebook.com/地理女子-205883653078560/>

地理学のアウトリーチ研究グループ
facebook ページ
<https://www.facebook.com/outreachgeography/>

新聞に 4 件取り上げられた
・ 東京新聞 2016/6/23 版「地理女が行く」
・ 日経 MJ 新聞 2016/10/31 版 20 面「ブラ地理ジョ」
・ 日本経済新聞 2016/11/26 版 13 面「地理ジョ」道にときめく
・ 日本経済新聞 2017/4/5 版 31 面「地図あしらった文具-お茶の水女子大」

地図ジャーナルに取り上げられた
[地図 goods × 地理女子]. 地図ジャーナル
No.179.10-13.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長谷川直子 (HASEGAWA Naoko)
お茶の水女子大学 基幹研究院 准教授
研究者番号：60433231

(2) 研究分担者

早川裕式 (HAYAKAWA Yuichi)
東京大学 空間情報科学研究センター
准教授
研究者番号：70549443

横山俊一 (YOKOYAMA Shunichi)
お茶の水女子大学 サイエンスアンドエ
デュケーションセンター研究協力員
研究者番号：80714980

(3) 連携研究者 ()

研究者番号：

(4) 研究協力者 ()